
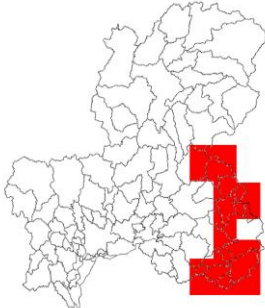


タマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> Franch. et Sav. var. <i>filipes</i>	絶滅危惧I類
		カヤツリグサ科
選定理由	生育地が限定される上に、もともとの個体数が少なく、継続的な減少が予測されるため。	写真(清水英彦) 標本
形態の特徴	匍匐枝を出さず、叢生する。基部の鞘は暗紫色。葉の幅は広いもので3-4mm。頂小穂は雄性で長柄があり、雌小穂や苞とは接しない。雄鱗片は赤褐色、鈍頭。雌鱗片は白色で中脈緑色、鋭頭、果胞より短い。果胞は5-6mmで無毛、有脈、嘴は細長く、口部は斜形。花は5-6月。	
生態的特徴	丘陵や山地の樹林や湿った草地に生育する多年草。	
分布状況	本州・四国・九州・対馬に分布し、岐阜県では県南東部に分布する。	
減少要因	開発に伴う草地の消失、山林伐採。	
保全対策	山林の保全。昔ながらの草地の維持。	
特記事項		
参考文献	勝山輝男. 2005. 「ネイチャーガイド 日本のスゲ」. 文一総合出版, 東京. 星野卓二・正木智美・西本真理子. 2011. 「日本カヤツリグサ科植物図譜」. 平凡社, 東京.	

文責: 清水英彦